

# Marche/交流@KOIN

## KOINマルシェとは?

知恵森(KOIN)が支援している、または関係・協力団体が応援している創業間もない方や起業を志す学生などが開発した商品やサービスを展示販売できるチャレンジショップです。



大垣書店に期間限定でKOINマルシェがオープンします!新進気鋭のメンバーの新しい挑戦で生まれた商品が多数登場予定。皆様のお入りを是非お越しください。

▶産業人材育成推進部 主査 櫻 芳哉

大垣書店 京都本店 催事スペース「催」にて

## KOINマルシェ 開催決定

第1部 3/11(Fri)~13(Sun)

第2部 3/18(Fri)~20(Sun)

18店舗

出店

全店舗の情報は

こちらから▶▶▶



### 第1部

### 第2部

#### 緑のゆうき(Marooni Grupo株式会社)

有機JAS、農薬化学肥料不使用などのこだわりの、美味しい野菜の通心販売。規格外をなくすべく、ユニーク野菜として定期や加工品の企画販売。売上げの1%は子どもたちや未来を創る活動に寄付などの応援をしています。



#### ORIOBI

「ORIOBI」とは、着物帯を使ったオリジナルデザインの装飾品です。祖母から譲り受けた古い帯をきっかけに、帯にハサミをいれず、1本そのままの形を大切にしながら制作しています。



#### OYAOYA

規格外野菜を活用した商品を通じて、農業のある暮らしを届けるブランドOYAOYA。第一弾商品は、農家さんの魅力ごと乾燥させて、「もぐもぐ、じゅわり。」噛むほど旨味溢れる、乾燥野菜。



#### nowi(marmaru design)

デザイン・商品企画・作製業務を行っています。デザイン・イラスト業と、自身の商品ブランド「nowi」小売卸売業。北欧デザインから影響を受けた、生活を彩る優しくて丁寧なものづくりを心がけています。



#### スープとお惣菜PanBoo

地元京都を中心とした無農薬野菜や、美山の平飼いの鶏の鶏ガラスープなどこだわりの食材をつかい、保存料や着色料・甘味料など化学調味料はすべて無添加。心と身体に優しいごはんをつくっています。



#### sampai

「産廃を減らす、想いを紡ぐ」がコンセプトのハンドメイドブランド。京都・西陣の伝統産業や地場産業の生産過程で出る「産廃」を再利用したアクセサリを販売する。「sampai」の商品ストーリーをぜひ店頭で。



#### 出店者様からの声

老若男女さまざまな人が集まる場所で出店させていただいたおかげで、普段なら聞くことができない人達の意見を聞くことが出来ました!

京都を中心に活動をされている他の事業者さん達と仲良くなることができて、お互いいい刺激になりました!



## KOINの受付 やってます



中村 美遥さん  
京都大学  
総合人間学部  
2年生



KOINで受付スタッフをやらせていただいております、中村美遥と申します!私は約2年前に先輩方が起業して作った「café & bar Katharsis」を運営する学生団体K-Lab.にて副代表をしており、その関係でイベント企画や受付スタッフとしてKOINに携わらせていただいています。

KOINでは毎月様々なイベントが開催されており、日頃も年齢問わず多くの方が集って思わぬ出会いが広がる素敵な空間です。起業に興味を持たれている方はもちろん、そうでない方にぜひお気軽に来ていただけたら嬉しいです!

受付スタッフにもお気軽にお声がけください!



一般社団法人  
京都知恵産業創造の森

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78 京都経済センタービル3階  
TEL 075-353-2300(代表) <https://chiemori.jp/>

# HIE ちえクロス ROSS

「知恵と融合」から生まれる  
未来のイノベーション

Winter  
2022.冬  
2号

## Special Edition

### 知恵森とともにイノベーション創出に取り組む 皆さんの声をお届けします!



3/3  
開催  
知恵森フォーラム  
に登場

emol株式会社 COO  
武川 大輝さん  
(写真右)

一般社団法人  
京都知恵産業創造の森  
スタートアップ推進部  
次長 川口 高司  
(写真左)

#### 京都で起業する魅力

武川 2019年3月に創業し、秋葉原で1年半ほどオフィスを構えていたのですが、コロナ禍でスタッフもリモートワークとなり、首都圏に会社を構える意味があるのかなど考えるようになりました。環境をがらっと変えて別の都市に移転しようと考えたとき、禅や侘び寂びなどマインドフルネスのイメージがある京都が思い浮かんだんです。Notionという急激に伸びているスタートアップが、京都でプロダクトを開発したという話を聞いたとき、いろんなノイズを取り払って目の前の仕事に集中できるままだと思いました。

川口 武川さんとはSNSのグループで知り合って、京都で人が集まる場所を探していると聞いたのでKOINでお会いしたんです。メンタルヘルスケアはまだ十分に市場が確立されていない分野ですが、emolでは国内で展開されるメンタルヘルスケアサービスを分類して紹介する「カオスマップ」を独自に公開するなど、業界全体を盛り上げようという気概が伝わってきて、私自身、ぐっと惹かれるものがありました。

#### 交流から生まれる創造

武川 フランクで明るく、情熱にあふれている...というのが川口さんの第一印象でしたね。あとから知恵森は行政や支援機関、金融機関などからいろんな人が集まって構成されているということを知って驚きました。特に、KOINは私にとっては心理的安全性が高く、今日は誰がいるかな?くらいの気持ちで気軽に立ち寄ることができる場所なんです。首都圏にもコミュニティスペースはありますが、支援者が起業家を奪い合っているギラギラした雰囲気があって、ゆっくりと話してもらえない(笑)。

川口 いろんな人をつなぐハブというのがKOINのコンセプトなんです。人をつなぐためには、何をしたいか悩んでいる方の話もしっかりと聞かないといけない。何か支援プログラムを作っても、必ずしもその企業や人にとって効果があるわけではないんです。KOINに来てもらって、先輩や仲間と交流し、刺激をもらって何か化学反応を起こすことも必要だと思っています。

#### 京都発ベンチャーの優位性

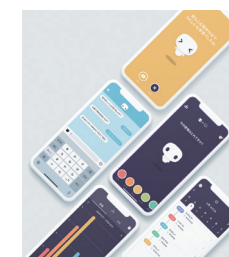
武川 京都に会社を移して気づいたのは、ヘルスケアやバイオなど、いわゆるディープテック(大規模研究開発型)と言われるベンチャーがたくさんあるということです。例えばIPS細胞を使った再生医療技術のように、すぐにはお金につながらないかもしれませんが、実は世の中を大きく変えるようなインパクトを持っている...。そういう技術や商品、サービスをしっかり育てていくことが大切だと思いますね。

川口 おっしゃるとおり京都の比較優位性は、ライフサイエンスや、ものづくりの分野にあると感じています。また、併せて支援者としてはそれを国内外に発信していきたいですね。

#### 起業家へのメッセージ

武川 京都でこれから起業を目指す人は、もっとアニマルスピリットを持ってほしいですね。首都圏のプレーヤーは、自分がやらなければ他の人に先を越されてしまう...という危機感を持ちながら仕事に臨んでいます。短期間でのEXITでもいい、とにかく短い期間で成功していくモデルケースをもっと増やしていくことで、京都だけでなく関西全体のポテンシャルを高めていければと思います。

川口 私たちも、日々成長し、スピード感を持って様々な支援に取り組んでいきたい思います。本日はありがとうございました。



#### emol株式会社

京都市下京区中堂寺南町134 ASTEM棟7階  
<https://emol.jp/> support@emol.jp  
事業内容 AIとの会話を通じてメンタルセルフケアを実施する  
アプリの開発・運営



OPEN INNOVATION FORUM 2022  
~ 京都で育むイノベーションと知恵の物語 ~

日時 3月3日(木)17:30~20:00  
場所 京都経済センター3階KOIN

オンライン配信も  
行います

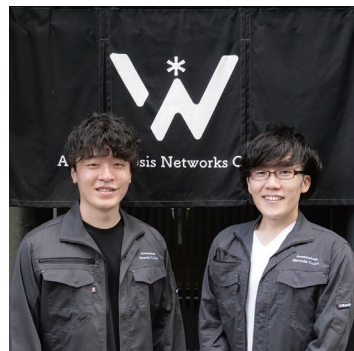
詳細はこちら





スマート社会実装化促進事業  
補助金採択企業の紹介AI技術を使った検査装置で  
ものづくり企業の価値を創出3/3  
開催  
知恵森フォーラム  
に登壇

## お試し無料のOpen PoCシステム



小澤行央さん(左)と炭谷翔悟さん

京都大学大学院でAI(情報論的学習理論)の研究に取り組んでいた炭谷さんが、ベンチャー企業を立ち上げたのは今から4年前のこと。「最先端の研究シーズを社会実装できる技術にまで高めたい」という思いから、誰もが専門知識なしで製品や部品の品質検査ができるソフトウェアを開発し、Open PoC(公

開実証システム)によるオンライン提供を始めた。

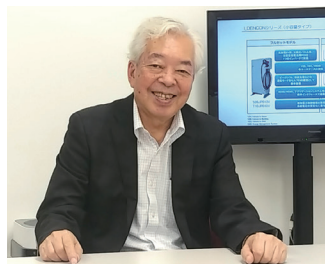
具体的には、AIと独自のペイント機能を組み合わせた技術で、類似した傷の分別はもちろん、割れやひびなど11パターンの欠陥を認識することが可能となっている。また、前述の不良品パターン認識技術に、良品パターン認識技術をハイブリッドさせることで、未知の欠陥も精度よく判断できるようになったという。「検品業務をもっとクリエイティブに」と話すように、同社の技術はものづくり現場での作業スタッフの負担軽減や歩留まり改善に大きな成果をもたらしている。

エネルギー社会の未来を変える  
新たな電力供給システムを提案

## 次世代のバッテリーリユース技術

EV(電気自動車)の登場は、世界のエネルギー事情を大きく変えた。アメリカでは450kWh、つまり1台の自動車で20軒分の家庭電力を賅えるEVが開発されるなど、今や多様な電力源を組み合わせるエネルギー消費を平滑化していくVPP(バーチャルパワープラント)の考え方が浸透しつつある。

「新たな時代にふさわしい要素技術は何か? 常に問い続けなければならない」と今井さん。その一つが、EVなどのバッテリーをリユースした再生電池と、太陽光発電などを組み合わせた次世代電力供給システムの開発だ。これまで培ってきたSiCデバイス技術や直流コントロール技術に加え、オンリーワンのBMS(バッテリーマネジメントシステム)を採用しているのが特徴で、ネットワークを通して離れた場所からバッテリー(セル)



今井尊史さん

令和2年度「スマート社会実装化促進事業補助金」の  
認定企業をピックアップ  
社会を変えるテクノロジーの開発に取り組む2社を紹介する

## 小ロット・多品種に対応した装置開発

「Open PoCを通して、お客様の困り事に耳を傾けることができた」と炭谷さんは続ける。小ロット・多品種のものづくりに取り組む中小企業は、費用対効果の観点から、一品種に対して専用の検査機を導入することが難しい。同社では、これまで培ってきたAI技術をもとに多品種製造にも対応可能なオリジナルの外観検査機を開発した。品種ごとの学習モデルを自由に作成でき、360度全方位から検査できるのが魅力。さらに、小型で軽量、コストについても従来機に比べて低価格に抑えるなど、使いやすさと扱いやすさ、手に入れやすさの三拍子を実現させた。昨年、第1号機の納品を無事に終え、ソフトウェア会社の枠を超え、ソフトウェア中心設計に基づく新鋭の装置開発メーカーとして新たな一歩を踏み出そうとしている。

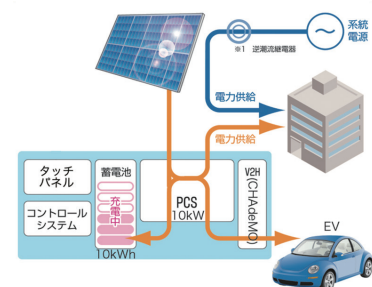


多品種製造に対応可能な外観検査機

同社は不良品を流通させないことを生業としているが、「次の目標は、不良品を作らない技術を世の中に提供すること」と炭谷さんはいふ。コストに頼らない中小企業の価値創出を目指す、その視線の先には、ものづくりの新たな未来が映っているのだろう。

## Anamorphosis Networks Co.,Ltd.

京都市左京区吉田本町36-1  
京都大学国際科学イノベーション棟西館1階kuvic  
TEL:075-708-8744  
https://anamorphosis.net/



次世代電力供給システムの構成図

の動作確認ができるほか、アルゴリズム解析によって故障箇所を事前に予測することも可能となった。大規模災害への備えとしてはもちろん、万一の時に事業をどのように継続していくかというBCP(ビジネスコンティニューイティプラン)を

解決するシステムとして注目されている。

「オープンイノベーションで日本全体の技術開発力を高めていきたい」。今、私たちの身の回りのあらゆる製品に蓄電システムが使われている。同社が提案する新たなサーキュラーモデルは、持続可能な社会の実現に向けて必要不可欠なものになっていくに違いない。

## 株式会社アイケイエス

京都市中京区烏丸通御池上ル二条殿町538  
ヤサカ烏丸御池ビル3F  
TEL:075-251-8511  
https://www.iks-jp.co.jp/

## ウェアラブル温冷覚刺激デバイスの開発

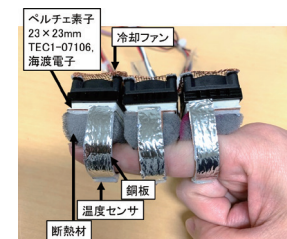
× 龍谷大学 先端理工学部 知能情報メディア課程

## 温度感覚の曖昧性を活用した次世代技術

人間の五感で、最も錯覚しやすいのが温度感覚といわれている。橋口哲志助教はMR(複合現実)空間を使った触覚研究を進める中で、人の腕や足の裏に温、冷二つの刺激を組み合わせて与えると、温感刺激を冷たい、冷感刺激を温かい…と錯覚するサーマルグリルイリュージョン現象を発見した。こうしたシーズを発展させれば、人の体感温度を任意にコントロールすることが可能となり、ガスや電気などで使われるエネルギー消費を抑えることができるようになるかもしれない。

今回のプロジェクトでは、京都知恵産業創造の森のコーディネートにより、これまでカトーテック(株)が培ってきた「風合い(触感)」を計測・評価する技術を掛け合わせ、指先などに実装着できるウェアラブル型の温冷感刺激デバイスを産学共同で開発。プロトタイプを使った実験では、指の先端、中央、付根にかけて37℃(H)と27℃(C)の温度刺激を交互に与えると、被験者の8割以上が温冷感覚を誤認する(HをCに、CをHに感じる)ことが明らかになった。

例えば、今回の実験で得られた知見を電気自動車のシート等に活用すれば、夏場でも28℃のエアコン設定で25℃の体感温度を得られるようになるだろう。カーボン・ニュートラルへの取り組みが加速する中、将来の研究応用と新たな市場展開に大きな期待が寄せられる。



ウェアラブル型温冷感刺激デバイス

## KOIN ACCELERATOR PROGRAM

— 知恵森との「出会い」について教えてください。

最初に知恵森の存在を知ったのは、令和元年度に弊社代表の岡村が、KOINで開催されたイベントへ登壇した時です。その時は一人のイベント参加者としてKOINを訪れましたが、多種多様な経歴・企業の人が集まっていることに驚きました。

— KOIN ACCELERATOR PROGRAM(以下、アクセラ)では、ご自身の事業アイデア「育み社員からつくる新しい働き方講座」を磨かれました。このアイデア(講座)の概要を教えてください。

「子育て社員は働きづらそう」というイメージをお持ちの方も多いかとは思いますが、この講座では、その「働きづらさ」を解消するきっかけを、経営者・管理者層も巻き込みながら提供します。部下へのマネジメントスキルや出産後の体調の整え方、ミスコミュニケーションの防ぎ方など、実践的な「学び」を得ることはもちろん、子育てと仕事を両立されている先輩社員をお招きして、身近でリアルなお話を聞きつつ、参加企業同士の

最先端の大学シーズを活用し  
新たなイノベーションを生み出すカトーテック(株)の取組を紹介

カトーテック株式会社  
京都市南区西九条唐戸町26番地  
TEL:075-681-5244  
https://www.keskato.co.jp/

執行役員 営業部長  
河内 敬 さん

## 風合い試験機のトータルデザインの一新

× 京都工芸繊維大学 工芸科学部 デザイン科学域 デザイン・建築学課程

## デザイン思考を活用した新たな創造アプローチ



1970年代に風合い試験機を開発

人がものに触れたときに感じる感覚はあくまで主観的で数値化するのには難しいが、例えばそれがやわらかいのか、なめらかなのか、心地よいのか…、製品開発を行う上で触感は大変な要素となっている。カトーテック(株)では

1970年代に、これまで曖昧だった判断基準を誰もが共有・評価可能な客観データに置き換える「風合い」計測技術を開発した。現在では、繊維や衣類はもちろん、「容器の持ちやすさ」や「コーティングの感触」などを計測できる試験機を提供し、国内外の多様なものづくり企業から支持を得ている。

一方で、デジタル化が進み、スマホなど多くの端末機器がタッチパネル等の操作へとシフトしている。これまでの機能性だけでなく、使いやすさや分かりやすさなどユーザビリティを取り入れた付加価値の提供が求められている。

本事業では、デザイン力を生かしたものづくり研究に取り組む榎勝彦教授と連携し、風合い試験機についてUI/UX(ユーザインタフェース/ユーザエクスペリエンス)の観点から包括的なプロダクトデザインを行うことで、同社のブランド力の向上と製品のプレゼンス確立を目指す。創業以来、60年以上培ってきた会社の思いや理念をグランドデザインに反映する試みにもチャレンジするといひ、デザイン思考を活用した新たな産学連携に注目が集まっている。



林 菜摘 さん  
KOIN ACCELERATOR PROGRAM修了生  
株式会社ウエダ本社 いろどるチーム 所属  
宮崎 光生(聞き手)  
一般社団法人京都知恵産業創造の森  
産業人材育成推進部 主任

交流も後押ししますので、様々な問題に対して相談しあえる仲間を社外に作るができます。

— アクセラに参加されていかがでしたか。

社外の人たちの客観的な意見が聞いて非常に参考になりました。メンターの方々とのセッションを経て、「自分がなぜこの事業をやりたいのか」をより明確に意識できましたし、アイデアの実現に向けて具体的なプロセスを描けるようになりました。「育み社員からつくる新しい働き方講座」以外にも様々な事業を手掛けていきたいので、知恵森とも協力しながらチャレンジを続けたいと考えています。

— 今後、ますますのご活躍が楽しみです!



「KOIN ACCELERATOR PROGRAM」について



林さんのアイデアについて